

ハロハロ・スタディツアー 2016GW

体験レポート



企画実施： 特定非営利活動法人ハロハロ
実施期間： 2016年4月30日（土）～5月7日（土）
実施地域： フィリピン マニラおよびセブ

2016GW 現地視察会に寄せて

今回の現地視察会は全員が社会人参加者での実施となり、現地の子どもを対象とした教育交流事業もよく内容の練られたものになりました。

参加者の皆様の現場への関心も高く、地域の人々との会話や意見交換も活発に行われていたのが印象的でした。

フェアトレードの現場を見たい、教育サポートをしている子どもたちに会いたい、などご参加者の皆様それぞれが思いを抱き、現場に思い切って足を踏み込んで下さいました。

日本と全く異なる生活スタイルに飛び込み、現場の人々と同じことに挑戦して下さり、寝食をともにして下さったこの体験は、皆様のこれからの生き方を必ずさらに充実したものにする大きなキーになると信じています。

また、皆様がこうして海をこえて離れた地域に生きる人々を応援し、現場に足を運んで下さったことは、スラムに生活し社会から見捨てられたように思うことも多い現地の人々にとっては、自分のことを心配してくれる人がいる温もりを感じる貴重な機会になりました。

現地視察会をはじめて2年となり、日本からいらして下さる皆様を励みに、一歩ずつ着実に地域社会の発展につながっていることを感じています。

今回もご参加いただき心より御礼申し上げます。ありがとうございました!!

皆様とともに、現場の人々とともに、充実した明日を築いていく活動を続けていきたいと思っております。これからもよろしくお願い致します。

理事長 成瀬悠

(会計報告)

収入合計：199600 円

マニラ参加費 3名 58,000 円、セブ参加費 2名 129,600 円

サポーター会費 12,000 円 (既存サポーター2名含まず)

支出合計：199600 円

マニラ事業地経費：

ホテル宿泊費 1泊 4名 7374 円、飲食費 6900 円、ユニカセ費用 6000 円、
現地ボランティア人件費 5400 円、雑貨製作日 1800 円、現地寄付金 6900 円

セブ事業地経費

ホテル宿泊費 2泊 3名 5027 円、ホームステイ宿泊費 8400 円、
現地ボランティア人件費 4800 円、飲食費 10200 円、雑貨製作費 600 円、
旅費交通費 4200 円、現地寄付金 9000 円

日本側経費

事務経費 24000 円、人件費 8日間 23000 円、旅費交通費 64000 円、会費 12000 円

8年前に1度訪れたことのあるフィリピンでしたが、そのときはいわゆる観光で、現地の方と交流するような機会もほとんどなかったので表面的なところしか見ておらず、貧しい国であるという認識しか持てませんでした。今回ツアーに参加するにあたり、以前にフィリピンに対して持ったその印象があり、一般的な発展途上国という言葉だけからのマイナスのイメージしか浮かんでいなかったのが不安がありました。ですが、実際に現地に行ってみて人と触れ合っただけで一番強く感じたことは、考えれば当然のことであるということが分かるのですが、住む国や環境が違っていてもそこに住んでいる人の感じていることや考えていることは日本人のそれと根本的には変わらないということです。家族のことを大切に思い、幸せに暮らしていくために何をすれば良いか、など、本当に同じ人間として当然の感情。もちろん、日本での私たちのように無駄に物が溢れた生活を送っているわけではありませんでしたが、その分、本当に必要なことが分かっている、それを実行していくためには何をすべきか、現地の方と手助けをする団体がお互いに知恵を出し合い、全く妥協を許さず真剣にその先のことに目を向けていることが伝わってきました。

ツアーの内容に関してですが、訪問させていただいたサマカバイのセンターでは、そこで現地のお母さん方が作っている雑貨の製作体験をしました。7年くらいジュースパックを使った財布を愛用していて、自分自身もものづくりの仕事をしているので、実際に作り手の方にお会いできたのは嬉しかったです。また1つ大切に使いていきたいものが増えました。

パーラランパンタオへの訪問に関しては、自分の身近に小さい子供がおらず、その世代の子たちとの接し方が分からなかったのが不安がありました。訪問の目的としては子供たちに日本の文化を知ってもらい、楽しんでもらうことであったのに、彼らは自分のように変に構えず、笑顔で受け入れてくれ、いつの間にかこちらが楽しませてもらっていたように思います。また多くの大人が道で立ち話をしていたり、同じ趣味に興じていたり、子供たちがバスケットをしていたりして、羨ましいことにそのコミュニティ内での人同士の関わり合いが現在の日本に比べて密であるように感じました。



恵まれない環境の若者を受け入れ、本人の自立を支援しているユニカセレストランでは、若者たち自身で考えて行動させることで社会に出るために必要となる実践的なことを身に付けさせている様子を拝見しました。短い時間ではありましたが、皆さんてきぱきと動いていらっしやって恥ずかしながら見習わなければと感じました。そして、何より出していただいたお料理がすべておいしかったです。

今回のツアーでは、現地の方々と接し、現在と将来のために行われている活動の様子を拝見することはできましたが、実際に現地で生活して現地の方々に寄り添って物事を見たわけではないので、まだまだ表面的な部分を見たに過ぎないと思います。それでも前回フィリピンに来たときとは少し違うフィリピンを感じる事ができたので参加してとても良かったと思っています。

それと、ツアーとは全く関係ないことなのですが、とても印象的だった出来事があります。空港から歩いていて迷い、カップルに道を尋ねた際、最初はジプニーの乗り場まで案内してくれるということだったのですが、両替前だったので現金を持っていないと話すと、自分を目的地まで連れて行ってくれた上にジプニー代もその2人が払ってくれるということがありました。自分も人には親切にするように心掛けていますが、元々持っていた印象があったのでまさかフィリピンでこのような体験をするとは思っていなかったこともあり、この行為に感動したのと同時に自分ももっと人に親切にできるし、しないといけないと感じました。そのようなことが社会をより良くしていくためには不可欠だと思いますし。

最後になりますが、マニラで関わり、お世話になったすべての方々に感謝いたします。ありがとうございました。



実はスタディツアー参加は、これで3回目となりました。
なんで、そんなに何度も！？と思われるかもしれませんが。
しかし、フィリピンという国に興味をもって4年、これまで何度も訪れましたが、このスタディツアーでの経験は一人で訪問したときには味わえないものです。

今回は、初のマニラ事業地での参加でしたので、2回目とは言え少し緊張気味での参加でしたが、始まってしまえば、思わず日本での生活を忘れてしまうほど内容の濃い数日間でした。

今回は、自分がこのツアーで特に魅力だと思った点を記載させていただきます。

●現状は見てみないとわからない

毎回フィリピンを訪れる度に新しい発見があります。

現代では、インターネットやテレビなど情報源はたくさんありますが、自分で訪れて、現地の人に話を聞くことで得られる経験や情報以上のものはないでしょう。

現地での生活や現状、抱える問題や解決の為の取り組み等、来て、見て、聞くことで、初めて全体像が見えることも多いと思います。

●新しい人との出会いに溢れている

現地で活動する人から、同じツアー参加者まで様々な方との出会いがあります。

バックグラウンドの異なる人とじっくり話せる機会は以外にないので、貴重な機会だと思います。

今回特に印象に残っているのは、以前から興味があった社会企業レストラン「ユニカセ」の代表中村さんから

直接お話しが伺えたことです。とても熱いお話をされる方で、話しながら思いがひしひしと伝わってきました。

参加の度に新たに学んだこと、知ったことはたくさんありますが、それ以上に新たな疑問・興味がたくさん出てきます。今後はフィリピン国内の政治や制度に関してもっと勉強したいと思います。

あと、コミュニケーションは語学力がなくてもサポートして頂けますが、やっぱりもっとお互いのことを理解するには、語学力も必要だなあ、と英語の勉強も頑張っています。

今後どのような形であれ、引き続き皆様のお手伝いできれば幸いです。

私にとって今回が初めてのフィリピン旅行でした。ツアーに参加しようと思ったきっかけは、今回の訪問先に含まれているセブ島のグレマー牧師は数年来の友人で、彼の世話するコミュニティの子供達にクリスマスプレゼントのギフトバッグを贈るという活動をしています。現地について聞いてはいるものの実際のところあまり知識が無く、プレゼントを受け取る子供達がどのように生活しているのか、またプレゼントのことをどのように思っているのか、分かりませんでした。その地域を訪問したいと考えていましたが、日本と生活環境があまりに違うと聞いていたので、自分には現地を訪問することは難しいと諦めていました。しかしハロハロのはるかさんと出会ってお話をうかがううちに、やはり行ってみたいと改めて感じ、またそのツアーの対応がとてきめ細かいことを知って、これなら自分でも行けるかもしれない、と思えるようになりました。アクティビティの内容がとても充実しており自分の興味とあっていたことも、今回の旅行を決めた理由のひとつです。そして、同じ興味を持つ初めてお会いする方々と共に旅行できることも、きっと良い体験になるだろうと考えました。

今、ツアーを終えてみて、それは本当に忘れることのできない素晴らしい旅になりました。マニラに到着して最初に訪れた近代的な高層ビルのショッピングセンター。それと対比するかのような廃棄ガスと粉じんと熱気の中のパヤタスへの一泊の旅。子供達がなんとか貧困から抜け出せるように、その最初の一步となる為の学校 PAARALANG PANTAO の訪問。封建的なフィリピン社会において女性達に活動の場そして収入の機会を与える為のコミュニティ活動の視察と体験。他の社会でもそうかもしれませんが、貧困の厳しい状況中でも女性は強くて朗らかです！ 小さな一部屋で生活していくのも大変、でも子供達の為に一生懸命に頑張るご夫婦に一お話を伺うこともできました。マニラに戻ってからは、貧困層の青年の為にレストランという場を通して活動されているユニカセの中村八千代さんからは、美味しいお料理とともに、フィリピンの現状と彼女のいまだく将来に関する貴重なプレゼンテーションをしていただきました。あのレストランで働く若者達には自分たちはお金では買うことのできない貴重な機会を手に入れている、ということをご存知かと思ってほしい。中村さんは昨年、大病をされたということで、彼女の健康をお祈りいたします。

セブ島に渡ってからは、どこへ行っても写真で見たことがあるような、初めてなのになぜか懐かしい風景の連続でした。グレマー牧師に初めて会えた時は本当に嬉しかったです。彼とガーリーの2カ所での子供達へのアクティビティにも参加させてもらいましたが、どちらも100人近い子供達があつまっており、皆、親切で明るく、たくさん笑顔と元気をもらいました。子供達を教え導き希望を与えることが彼らの将来のために本当に重要だと思いました。ホームステイさせていただいたコミュニティにおいては、美化活動やゴミの問題に、地域の女性達が積極的に取り組んでおられました。漁師の方の船にもものせていただき、より大きいエンジンを積むことにより、今までより遠くまで漁に出られるようになり漁獲高が上がったというお話を伺いました。どちらもハロハロの支援によるものですが、ボランティア活動によくある、与えるだけという支援ではなく、現地を理解しその必要を知り、変わるきっかけを与えてあげること、そして現地の方々と一緒に進めていくという方法が、現地の方々の生活を変えるだけでなく自信を与え、生き生きとした生活につながっていくということを改めて感じました。

今回のツアーを通して、一番良かったのはやはり人との出会いです。自分にとって相手を支援するときの基盤となるのは、まず相手に関心を持ちそしてその人間関係を深めていくことではないかと思っていますが、今回のツアーはそれをまさに実現させるものでした。ホームステイ先の方々、子供たち、アクティビティで出会った多くのの方たちからは本当に親切にいただき、お別れ会の時は涙が止まりませんでした。(;_;)/~^^

幸いクリスマスのギフトバッグの方はこれまで好評だったようで「今でももらった時の自分の名前の入った袋をずっと取ってる」と言ってくれる子がいたり、ホームステイ先の家族からも、私からは何も言わないのに、「自分の子供が名前の入ったプレゼントをもらってきて驚いた」という言葉を聞くことができたのは嬉しかったです。これからも地域の人達に思いをこめつつ、ギフトバッグを贈る活動を続けていきたいと思えます。

はるかさんはじめ、ハロハロのスタッフの方には大変お世話になり、ありがとうございました。案の定、最初は暑さと緊張で体調を崩しかけたのですが、皆様のおかげで安心することができ、大事に至らずにすみました。また一緒にツアーに参加した皆様、ありがとうございました。ツアー中、いろいろおしゃべりさせていただき、今まで自分の知らなかったことをたくさん伺うことができました。次の一機会、また是非一緒できることを楽しみにしています！

レストラン ユニカセ



キッズアクティビティに参加させていただきました



ホームステイ先でお好み焼きパーティ!



ユースグループと一緒にランチ



2016年5月2日～7日 セブのスタディーツアーに参加させていただきました。仕事でもフェアトレード商品を扱っているなのでその現場を見たいということと、フィリピンの現地の生活を体験してみたいと思ったのが参加理由です。フィリピンに行くのは2回目で、なんとなく生活もイメージできていたのですが、ホームステイしたり現地のボランティアの方から話を聞いたりすると、普通の旅行では体験できない臨場感のあるツアーでした。

以前フィリピンのほかの地域のゴミ捨て場に行ったことはありましたが、訪問したタリサイ市のゴミ収集所は、主にプラスチック系のゴミが多く、思ったほど臭いもなかったです。収集所の隣には国外のリサイクル工場があり、少しずつ改善されているのかなと思いました。



私が一番見たかったフェアトレード工場の視察は、貝でアクセサリなどを作っているところで、働いているお母さんたちは楽しそうに仕事をされていました。この仕事を始める前は何をしていたか尋ねたところ、特に何もしていなかったとのこと。その中の何人かは、貯めたお金で食堂や売店を始めたのですが、代金をツケにする常連もいるらしく、そのお金も支払われていないということもしばしばとか。



漁師の村を訪問したときは、新鮮な魚をいただけて感動しました。マイクロクレジットでボートにモーターをつけたことによって、遠くの方にも漁に行けるようになり、その日もたくさんの魚が釣れていました。



またコミュニティに参加して、地域の活動や問題について話し合ったり、ホームステイ先では3泊させていただき、現地の生活を体験しました。私がお世話になった家庭は、常にきれいにされていましたが、コミュニティではゴミの問題がなかなか改善されないという話でした。村には水道がなく、毎日井戸水で顔や体を洗い、トイレも4軒が共有していました。正直初日でギブアップかと思いましたが、ホストマザーやその近所の住民のおかげで、毎日楽しく過ごせました。

そして一番の思い出は、子どもたちの笑顔です。人なつこく、いろいろなことに興味を持ち、きらきらした瞳が印象的でした。本当に毎日癒されました。今回現地で学んだことや、このご縁をこれからも大切にしていきたいと思います。

